

こしょうがつ 小正月のお話

1月1日を中心とした正月行事「大正月」に対し1月15日に行われる行事のことを「小正月」といいます。

かつて日本では、月の満ち欠けを1ヶ月の基準として暮らしていました。人々は満月となる旧暦の1月15日に当たる日を「1年の始まり」として祝っていたそうです。これは昔の日本人が、満月をめめでたいものだと考えていたことに由来するそうです。

また、小正月は『女正月』と言って地方によっては女性の骨休みの日とされているそうです。

暮れから正月にかけて忙しく働いた主婦をせめて1日でも家事から解放してあげようと「**あなづ**」の意味でこう呼ばれたといわれています。※小正月には「二番正月」「望正月」「若正月」「花正月」といった別称があります。



■小正月の行事食や行事■

あずきがゆ 小豆粥を食べる 【無病息災を祈る】	煮た小豆を混ぜて炊いたお粥を食べる風習があります。これは「小豆粥」や「十五日粥」といわれ新年の季語にもなっています。小豆のように赤い色の食べ物は邪気を祓うと考えられていた中国の古い風習に由来しているそうです。
もちばな 餅花を飾る 【豊作を願う】	餅花を飾り豊作を祈る行事です。餅花とは紅白の餅のことで、これを柳などの木に飾り農耕神の よしやく （先に喜び、先に祝うことでその現実を引き寄せる）の花とされている桜の花や実った稲穂に見立てます。また、地方によっては餅ではなく米の粉などを まゆだま のように丸めた【 繭玉 】を飾るところもあります。
さきもち 左義長 【災いを払う】	正月飾りや書き初めを燃やす行事で、その煙に乗って年神様が天上に帰るとされています。「左義長」は、 さきもち 杖という青竹で正月飾りを焼いたことに由来しているそうです。「どんど焼き」や「とんど」とも呼ばれその火で焼いたお餅などを食べると無病息災で過ごせるといわれています。

小正月を始め年末年始は日本の伝統的な行事が行われる時期です。こうした日本らしい伝統を絶やさず後世まで伝えていきたいですね。

**2021年も
道新ぶんぶんクラブ
をどうぞよろしく
お願い致します。**



北海道新聞のキャラクター
ぶんぶん



どうしんをまるごと読める
【どうしん電子版】
入会はコチラから



かがみもち 鏡餅のお話

日本の古き良き伝統の正月飾り『鏡餅』。鏡餅は「その年の豊作を祈願し新しい門出を祝う」という意味があります。

■どうしてお正月に『鏡餅』を飾るの？

昔から、餅はハレの日（特別な行事の日）の食べ物で餅には稲の霊が宿り餅を食べた者には力が与えられると考えられていたそうです。年（歳）神様（正月に家へ迎え入れる神）へのお供え物でお正月の間、年神様が鏡餅に宿られるとされてきました。

■『鏡餅』という名前はどこからきたの？

お餅の形の丸さが昔の鏡に似ているところから名づけられたといわれています。鏡というのは「三種の神器」の一つです。天皇家が代々、受け継いできている神器のひとつにもあるように、日本人にとっては宝物の象徴です。また鏡には神様が宿るとい言い伝えがあり鏡の形を象った飾りで一年の始めを神様と共に祝いするという意味もあるそうです。

■『鏡餅』の飾りにはどんな意味があるの？

だいたい 橙	一度実がつくと数年は木から落ちず大きく実が育つことにあやかって、代々家が大きく栄えるように。
すえひろ 末広	末長く繁盛するように。
ごへい 御幣	四方に大きく手を広げ、繁盛するように。紅白には魔よけの意味があり穢れを払い清めます。
うらじろ 裏白	表面は緑色、裏面は白。裏を返しても色が白いことから心に裏が無い清廉潔白を願う意味。
しほろべに 四方紅	お供えを載せる色紙で四方を「紅」で縁取ることで、天地四方の災いを払い繁栄を祈願します。
さんぽう 三方	神様、尊い相手へ供物を載せる台。三方向に穴が開いていることからこの名がついたそうです。

毎年1月11日は【鏡開き】です。鏡開きとは、新年の「年神様」にお供えした鏡餅を下げて食べる行事です。昔の武家では鏡開きで正月を一区切りし仕事始めをするという意味があったそうです。武家から始まった行事なので切腹を連想させる刃物で切るのは禁物とされ木槌で割ったので鏡開きと言うようになったといわれています。

今年の干支は 丑（うし）



■丑年生まれの人の特徴■

丑年生まれの人、物事をじっくりと考えてから行動する慎重派だといわれています。マイペースだと思われがちですが、忍耐強く黙々と道を歩んで成果をあげるタイプなのだから。おっとりしていて穏やかですが古風で一途。怒ると怖く頑固な一面もあるといわれています。

■丑年の特徴■

丑は十二支の順番でいうと2番目です。子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされています。丑年には先を急がず目前のことを着実に進めることが将来の成功につながっていくといわれているそうです。

■丑年の由来■

「丑」という字は、手の指を曲げて物を握る様子を表した象形文字で【つかむ】【からむ】という意味があります。糸へんに丑と書く「紐」にその意がうかがえます。

中国の『漢書（中国の歴史書）』では「丑」は【曲がる】【ねじる】という意味を持ち、芽が種子の内部で伸びきらない状態を表しているといわれています。

■丑（牛）の豆知識■

- 世界に生息している牛の種類は約100種類といわれています。『うし』の語源については諸説ありますが、いくつか紹介します。
- 古書の『東雅（江戸中期の語源研究書）』という本に書かれている内容で、韓国語の方言で牛のことを「う」と言っているのが日本にも伝わって「うし」になったという説。
- 『日本名言集』で、牛は「うしし」と言っていたものが「うし」になったという説。など。現在世界中にいる全ての牛の祖先は、たった80頭の牛だといわれています。原種は体高およそ2mで、人の腕と同じぐらいの長さの角を持つ「オーロックス」という牛だったそうです。数千年前にイラン人の農家によって家畜化され始め現在に至るそうです。

■丑（牛）にまつわることわざ■

ことわざ	意味
あきな 商いは牛の涎	商売をするには、一時に大もうけをしようとすれば失敗するものだから牛の涎のように細く長く切れ目なく気長に続けねばならないという意味。
牛に引かれて善光寺参り	思いがけず他人に連れられてある場所へ出掛けること。また、他人の誘いや思いがけない偶然で良い方面に導かれることのたとえ。
牛に経文	いくら言い聞かせてみても何の効果もないことのたとえ。
くさき 草木も眠る丑三つ時	気味が悪い程ひっそりと静まりかえっている真夜中のたとえ。
牛の角を蜂が刺す	何かされても痛くもなんともないことのたとえ。
牛の歩みも千里	努力を怠らなければ成果があがることのたとえ。

【正月】にまつわることわざ『盆と正月が一緒に来たよう』

- 【読み】 ぼんとしょうがつがいっしょにきたよう
- 【意味】 嬉しいことや楽しいことが重なることのたとえ。また、非常に忙しいことのたとえ。盆と正月にはそれぞれ特有の行事があることから、一年のうち最も賑やかで「慌しい」二つの日が同時に来るくらい、忙しいこと。江戸時代の習慣で数入りというものがありました。商家にて住み込みで働いていた奉行人は年に二回（盆と正月）しか休暇をもらえなかったことからきているそうです。
- 【対義】 月雪花は一度に眺められぬ（良いこと・幸運なことなどを一度に経験することは出来ない）
- 【英語】 Two sundays come together. (日曜日が二つ一緒に来る) As busy as all quarterday have come together. (四季支払日と一緒に来た忙しさ)
- 【用例】 「今年は大変だあ！春には弟が結婚をして、夏には姉に子供が生まれる。まるで盆と正月と一緒に来たような嬉しい忙しさになりそうぞ！」